

発行所  
燎原社

〒606 京都市左京区  
東竹屋町・川端東入る  
部落問題研究所内  
電話 京都 761-2141 番  
振替口座京都 15762 番  
発行人  
木村 京太郎  
価額 1部 200円  
年 2,000円(元共)

**蜷川虎三先生逝去**

「憲法をくらしの中に生かそう」  
をモットーとして、七期二十八年間、民主府政を貫かれた京都府前知事蜷川虎三先生は、二月二十七日午後七時二十四分、心不全のため自宅で逝去されました。故人の意志によりお通夜、告別式をとりやめられたが、三月一日正午の出棺には、故人を追慕する府民三〇〇〇名に見送られて永遠の旅路につかれました。私たちも先生の遺志をつき、民主府政の再建のために、全力を尽すことを誓い、ご冥福をお祈りします。

「討論全体を貫く基調には、日米安保条約の危険な攻守同盟化と軍拡路線解釈・明文双方にわたる憲法の改悪、国民生活のギセイを強いる増税・低福祉の強行をはじめ、わが国政治の急速な反動化に対する深い憂慮と、怒りの告発であります。また戦火とその土壤

▼さる二月十五日、大阪で開かれた「政治革新・統一戦線を語る全国交流集会」には、会する者四七都府県の懇話会代表二五五名、発言者は二八名という熱気に満ちた集会となつた。

(1)

となる軍国主義、ファシズムの再現を断じて許してはならぬとの使命感がこめられています。今日の危機を開拓し、政治の革新と日本の民主主義的再構築のためには、広く社会進歩をおしすめるために広汎な国民的統一戦線構築の事業をなしとげよう、との強い連帯感があります

▼私も当日京都勢一六人の一人として参加し、大きな感銘をうけた。京都を代表して蟹江邦彦氏は「ガンになつてからでは遅い。今のうちに反動化を食いとめよう。共産党も社会党も国民党もない。和平、民主主義を守ることは全国民の願いだ」と挨拶した。

(2)

▼戦前の日本にも、昭和十一、十二年頃、コミニテルン第七回大会の「反フアシズム統一戦線の決議や、フランス、スペインの人民戦線内閣の成立に触発され、日本軍国主義反対の統一戦線への胎動があつた。京都でも「世界文化」「土曜日」「学生評論」「リアル」など、統一戦線思想を拡める地道な努力が行われていた。しかし時はすでにそかつた。戦闘的な労・農・文化運動は早くも弾圧され、治安維持法、特高暗黒裁判の弾圧体制が確立し、戦争協力の国民総動員の網の目が張りめぐらされ、五・一五事件以来政局における軍部の発言権が強まり、これが昭和十一年の二・二六事件以後、軍部の独裁ともいふべき政局運営になつてくる。この勝立の上に、全面的な中国侵略戦

争が開始されたのである。この中で合戦協力がはじまつてくるのであつた。

▼私は大学卒業から東京就職までの一一年足らず「世界文化」のお手伝をしてすぎないが、それでも欧州の人民戦線の動きを通じて、戦争を阻止し、日本の民主的な再生をはかるには、広汎な統一戦線以外にはないことを痛感させられた。しかし何としても時はすでにおそかつた。昭和十三年秋、中支の前線で、私は「世界文化」解散を友人からのたよりで読んだ。私はこのたびの全国集会で、他府県代表の苦労話を聞きながら、「今なら間に合う」と、何回も心中で繰り返した。

(3)

から、「労働運動のないところに革新はない。自分たちの平和とくらしを守る労働者の大衆運動で、上からのファシズムを下から一つづつ潰していく。労働運動は理窟じやない。幸せな生活、という切ない要求から始まるのだ」とくらしの問題を強調された。石油、電力、ガスをはじめ、相次ぐ公共料金の値上げ、三年間調整減税なしの実質大増税、政府の見込みをはるかに上廻る七・八%の物価上昇で、昨年の労働者の実質賃金は、この調査開始以来はじめての〇・九%の低下である。

▼現在国会で審議中の五年年度予算では、財政再建の名のもとに、法人税、酒税、印紙税など一兆三九六〇億円にのぼる大増税や、米価、国鉄運賃、健保や、各種年金の掛金などの大巾値上

くらしと平和の闘いを結び  
いたるところに統一の芽を！

## 第 2 回総会 第 14 回例会

### 案内

別記のとおり、来る三月十九日、本会第二回総会をひらきます。

昨年二月二十二日、北野立本寺での結成総会から満一年余をすぎました。本会は京都における民主運動の先駆者故山本宣治代議士の五〇周年忌と故河上肇博士生誕一〇〇年祭を迎えて、そのすばらしい行跡を偲び、その遺業と戦後における京都の民主運動の輝ける伝統を現在に継承发展させる願いをこめて発足しました。私たちは結成総会で次のことを約束しました。大正末期から昭和前期に、暴虐な支配階級の弾圧に抗して、牢獄にいたり死をも恐れず、大衆の自由と幸福のために勇敢に戦った多くの同志を回想し、それらの人々を起したしました。当時の歴史と社会を明らかにすることが、

左記の通り、本会第二回総会と、第十四回定例研究会を開きます。

（1）八〇年度事業・会計報告

（2）新年度事業計画・予算審議、役員選任

（3）京都教育文化センター第七号室  
(左京区新道丸太町上る京大病院前)

（4）テーマ 戦前京都の無産診療運動について  
　　一名 五〇〇円（茶葉費共）

（5）研究例会（午後二時より）  
　　参加費 一名 五〇〇円（茶葉費共）  
　　ゲスト 当時の活動家 杉山 茂 先生

### 第一回総会に当つて 全会員の御参加 を期待します

別記のとおり、来る三月十九日、本会第二回総会をひらきます。

昨年二月二十二日、北野立本寺での結成総会から満一年余をすぎました。本会は京都における民主運動の先駆者故山本宣治代議士の五〇周年忌と故河上肇博士生誕一〇〇年祭を迎えて、そのすばらしい行跡を偲び、その遺業と戦後における京都の民主運動の輝ける伝統を現在に継承发展させる願いをこめて発足しました。私たちは結成総会で次のことを約束しました。大正末期から昭和前期に、

現在の民主憲法を無視し、軍備の増強によって軍国主義、ファシズムを再現しようとしている反動的な潮流を、阻止し、平和と自由の民主主義を確保し发展させることの急務を痛感しました。そして、戦前・戦後、幾多の試練を得てきた私たちが、声を大にして警鐘を鳴らすことの任務を自覚しました。私たち、毎月一回定例研究会を開いて、戦前・戦後における労・農・無産運動の思い出を話し合い、十三回を重ねました。また、その話合いの内容を会誌「燎原」を通じて、会員、誌友に知らせ、さらに会員各位からの投稿消息などをまとめて、毎月定期に発行し、すでに十二号をみなさんに送っています。こうした、研究、出版活動を通して古き同志、新しい僚友の再会、親交を深め、それは京都地方だけでなく今や全国に拡がり、遠く札幌市において同志を得るに至りました。そして、これらの事業活動に要する経費も、会員、誌友の拡大・支援によつて、自ら

賄い得るようになつています。

これら昨年度に行つた事業と会計状態を報告し、承認を得たく存じます。

次に新年度は、会員、誌友の倍増になります。そのため会員各位の御協力支援をお願いしたいのです。

新しい年度の事業計画と、收支予算を賄う財政の充実、確保を期待しています。

協力支援をお願いしたいのです。

つて、ページ数の拡大と内容の充実を行を期したい。それによって第三種郵便物の資格を確保し、送料の半減による便益を

はかります。そのため会員各位の御協力を期したい。それによって第三種郵便物の資格を確保し、送料の半減による便益を

つて、ページ数の拡大と内容の充実を行を期したい。それによって第三種郵便物の資格を確保し、送料の半減による便益をはかります。そのため会員各位の御協力を期したいのです。

つて、ページ数の拡大と内容の充実を行を期したい。それによって第三種郵便物の資格を確保し、送料の半減による便益をはかります。そのため会員各位の御協力を期したいのです。

つて、ページ数の拡大と内容の充実を行を期したい。それによって第三種郵便物の資格を確保し、送料の半減による便益をはかります。そのため会員各位の御協力を期したいのです。

つて、ページ数の拡大と内容の充実を行を期したい。それによって第三種郵便物の資格を確保し、送料の半減による便益をはかります。そのため会員各位の御協力を期したいのです。

（1）八〇年度事業・会計報告

（2）新年度事業計画・予算審議、役員選任

（3）京都教育文化センター第七号室  
(左京区新道丸太町上る京大病院前)

（4）テーマ 戦前京都の無産診療運動について  
　　一名 五〇〇円（茶葉費共）

（5）研究例会（午後二時より）  
　　参加費 一名 五〇〇円（茶葉費共）  
　　ゲスト 当時の活動家 杉山 茂 先生

（6）国民生活の破綻と軍国主義の推進、  
　　金をバラまいたのもこのためである。  
　　そして戦争は、いつか来た道である。  
　　その中で、我々は今何をなすべきか  
　　を問われているのである。（Y）

## — 第 11 回 研究例会報告 —

## 敗戦直後の

## 京都の労働運動について(上)

元京都府労働部長 井家上 専氏談

「語る会」第十一回例会は、一月廿日午後二時前から同五時頃まで、京都市職員会館「かもがわ」でゲストに元京都府労働部長、井家上専氏を招き、標記のテーマで思い出話を聴きました。出席者廿四名中には婦人三名（八十歳を越えても元気いっぱい）、若い者を励ましておられる渡辺美登さん、戦前からの社会運動家、大道俊さん、（京都戦後婦人運動史）編集者の井上としさん、大阪旧友クラブの代表世話人、高田鉄造さん、東京からは四・一六当時の活動家、北野照雄さん達もみえていました。司会者は、山田幸次さんから新春の挨拶、「語る会」代表世話人、住谷先生が今年八十五歳を迎られた報告と一齊拍手によるお祝がありました。続いて、井家上さんは周知のように、戦後、総同盟を再建され、また、京都地労協副議長にも選ばれ、その後、京都府の労働部長として、丁度、一番難しかった進駐軍の労働政策を恐らく、つぶさに体験されていると思うので、労働者のためのご苦労話しを、気楽に、自由にお話しがいたいと紹介がありました。

懇談会に入つてからも相当時間、興味ある話題に花が咲きましたが、紙面の都合上割愛させていただきます。なお、へ小見出しは編集部で

## はじめに

一九四五五年八月十五日（昭和二十年）重大放送がある。海軍の召集兵として、西宮の関西学院の仮兵舎にいた私は、不安と緊張のため寝をのむおいで正午當庭に集合をさせられた。

「朕は帝国政府をして、米英支ソ四国に対しその共同宣言を受諾する旨通知せしめたり」ラジオの福音が多くよく聞くことができなかつたが、天皇の国民に対する放送である。

今日お集りの皆さんは、或る人は進兵隊だった自分たちには、あまり情

歩的思惟を持っておつたという、それだけの理由で、また庄政から貧困の解放を志して、弾圧・箝口の中にあつた方もあるとおもいます。

その日如何なる感慨でこれを聞かれたかとおもいます。私の卒直な感情は戦前に社会運動に關係したものの一人として、天皇制ファシズムの中で戦争に心から賛同するという立場をとつてゐなかつたのですから「戦争が終つてよかつた」という感情が最初に浮びました。

京都府の労働組合の現状

京都府および労働省の統計による昭和五四年の京都の労働運動の分野をみると、労組の数が一、六二九組合、組合員数が二五二、四六九名、これを系統別にみると、京都總評、京都同盟、京都中立労協、これが京都の戦後、現在労働界の大きな流れをなしています。

京都總評は三九単産、一四〇、三八九名。京都同盟が一九単産、四〇、七六四名。京都中立労協が一三単産、一五、四五六名。

以上が昭和五四年度における各組合の現有勢力です。

そこで、京都の地評をみると、官公労と民間労との比重は単産数に対しては民間二四に対する官公勞一五、組合員数は民間四八対五一、官公労組の比重が高い。

京都總評の中には、ご承知のとおり、

報が入らず、どこからか日本は中国復興のために捕虜としてつれてゆかれる」とのうわざが流れ、これはえらいことになつたと思つたものでした。

それはさておき、戦前戦後の資料について申しますと、戦前の記録には歴史の虚構と申しますか、それぞれの記憶というものが中心に編集されたり、ときには歪曲されていることもあります。ですが、戦後史は相当正確で、且つ詳細に記録されていると思います。

そこで、敗戦直後の労働運動を語る前に、現在、京都の労働運動の分野がどのようになつているかということをまず、最初に申上げたいと思います。

そこで、敗戦直後の労働運動を語る前に、現在、京都の労働運動の分野がどのようになつているかということをまず、最初に申上げたいと思います。

京都同盟は大体民間労組が主体の組織で、官公労の組織もあるがこれは、全郵政という組織の一、四八四名と、鐵労の大坂地本に所属するもの、或は福知山に所属するものを合せて、大体二、三〇〇名程度のものが官公労で、あと大部分は民間労組で構成しているのが京都同盟です。

それから、中立労協というのは電気労連傘下の組合が一三組合、一五、四五六名というものが京都における労働界の分布図になつております。

## 京都労働界の特徴

京都労働界の特徴といいますか、総評は中央、或いは各府県の地評等でも政党支持は社会党支持というが、総評の主流をなしています。ところが京都地評の場合は、いち早く政党支持の自由を打ち出したところに特徴があるのではないか。これは知事選をはじめいくつかの選挙のケースをみて、京都地評の政党支持自由ということがかなり大きくなっています。

それから京都同盟は、民社党支持とは事実だと思います。

京都では島津などが中心になつてゐる、いわれています。新産別についていえば、中央では総評に加盟していないが、

新産別は、京都地評に参加しています。

これは総会員数でみると、大体一三、〇〇〇程度ではないでしょうか。そこで、政党との関係を述べますと特定政党の支持ということは明確にしていませんが、京都中立労協にしても新産別にしても、社会党支持の傾向がいくつかの選挙で現われています。これが、京都における現在労働界を牛耳っている地評、同盟、中立労協などの動きではないかと考えます。

## ポ宣言、G H Q

### 指令と日本の国情

敗戦直前の二〇〇七年七月二六日、米、英、中、ソによつてポツダム宣言が行われ、その第十条は「日本を侵略戦争に導いた軍国主義一掃と、平和国家建設までの間における軍事占領」「日本国民は、日本国民の間ににおける民主主義の復活強化に関する一切の障害の除去」「言論、宗教、および思想の自由、並びに基本的人権の尊重は確立せらるべき」ということ。さらに連合軍司令部が十月四日に「治安警察法、治安維持法、特高警察の廃止、政治犯の釈放、天皇制批判の自由」などを発表しました。

次に十月十一日の指令で「労組の助成、婦人参政権の附与、教育の自由化」——こういった連合軍司令官の占領政策が、労働者に労働組合をつくる自由を保障し、天皇制と直結したファシズムと、非常に強大な日本の軍国主義は払拭すべきだという考え方が相次ぐ指令となつて出されました。

敗戦直後の二〇〇七年七月二六日、米、英、中、ソによつてポツダム宣言が行われ、その第十条は「日本を侵略戦争に導いた軍国主義一掃と、平和国家建設までの間における軍事占領」「日本国民は、日本国民の間ににおける民主主義の復活強化に関する一切の障害の除去」「言論、宗教、および思想の自由、並びに基本的人権の尊重は確立せらるべき」ということ。さらに連合軍司令部が十月四日に「治安警察法、治安維持法、特高警察の廃止、政治犯の釈放、天皇制批判の自由」などを発表しました。

そこで、敗戦直後昭和二〇〇八年八月十五日の敗戦のあとで、いち早く戦前に政府は、日本国民の間ににおける民主主義の復活強化に関する一切の障害の除去を行われます。

その第一は、二〇〇年の秋に安部磯雄、高野岩三郎、賀川豊彦などの長老が戦前四分五裂の状態にあつた無産政党を、社会党から社会大衆党、共産党系、つまり非法政党でなかつた無産政党のものを集めて、單一革新政党をつくるという動きが、全国的に呼びかけが行われたのです。

そして、京都での社会党支部結成に随分古い運動家。他に西陣の辻井民之マンをやっていますが、広く門戸を開放して、過去になじまないで、新らしい新生社会主義政党をつくろうといふのが呼びかけになつたわけです。

それと呼応して、一方では労組結成

ところが、こういう宣言・指令がつたから、労働組合ができるかといえども、当時は今ほど情報化社会でなかつたら、個々の労働者が、今いつたような宣言や指令を理解して組合をつくったというよりも、戦前天皇制ファシズムの下で、労働組合を一さい認めなかつた国策によるものであつた。連合軍司令部の占領政策は別として、敗戦中の食糧事情、失業問題は想像を絶するひどい状態であった。

## 敗戦による

### 労働組合運動の復活

の動きがありますが、後で述べます。

社会党が結党したのは二〇〇年十一月です。京都でも支部をつくるうという動きが始まり、同年十一月十二日、梅屋校で結成大会を開いています。当時の役員メンバーを挙げますと、

会長に水谷長三郎、書記長辻井民之

助。会計には、これも戦前京都市会議員の経験をもつ山村直三郎、水長さんと伏見幼稚園の友人。常任執行委員は、私、井上専、北牧さんもご存知の清水の陶磁器工生水徳松、後に社会党から社会大衆党にいた医師の津司市太郎、運動家の田中義男、同弁護士の中村三

之助、薬剤師の吉川末次郎、この方も

は、京都の水谷長三郎さんがスポーツ

助氏系統の幾山福三郎、下沢嗣信、宇野清、林宏吉、國島勝子、会計監査は

松雄一郎、竹中恒三郎、塩谷寛二、細川酉、立野正一、赤石円三郎、若杉光夫、秋田清三郎、北牧孝三、泉隆(二

者は農民運動家)、幸徳秋水の研究家である緑屋寿雄、小柳津恒、南善蔵、村上伸秀、安井信雄、藤谷俊雄、岡本秀一(島津にいた医師)——以上のような

方が活躍されていましたとおもいます。

昭和二年一月の京都商工經濟界(商

工会議所)発表の(二〇〇年十一月現在の平均世帯のデータ)によれば、京都市内の工員の生計は、夫婦と子供三人世帯の月収が一八九円四五銭、支出が四九三円二一銭、差引三〇三円七六銭の赤字となっています。

このほげしいインフレと飢餓状態の中、労働者は占領軍の政策以前の問題として、生活防衛の英智が、組織の統一と団結を促したものと思います。

## 食糧と農業問題の集会

平民懇と農業を発展させる会共催で、

次の集会がひらかれます。

とき 三月二八日(土)二時~五時  
ところ 綾部市 市民センターホール  
テーマ 現在の食糧、農業問題

基調報告 立命大教授 大蔵輝雄氏

農業生産、流通、食品公害など当事者報告のあと、一般参加者の自由討議、ふるつて参加下さい。

## 発足当初の

### 労 働 組 合 の 動 向

#### まず 戦前の回顧

戦後の労働組合運動の組織をみますと、京都では、水長という戦前からの代議士がいたという老舗があり、社会党京都支部がいち早く結党したことは党組織労働者に強いアピールとなつた。労働組合が組織されたが、連合会として独立の事務所を持つほどの資金もなかつた。社会党的事務所は川端四条下ルの水長氏宅で、組合の事務所も同居していた。共産党は和風書院（川端丸太町下ル東）に連絡事務所をもつていた。

今なら労組ができるときには、加盟する上部組織については、大会論議を通じ機関決定がいりますが、総同盟京都支部が廿一年の初め結成されたときには、水長という老舗があつたので、そこにいろんな組合結成についての規約の相談がもち込まれてきた。「燎原」第六号のゲストで話している小川広之介君は、党府連の常任書記に選ばれ常駐していた。

戦前には正直いって京都では労働運動が組織として定着をしていなかった。それは京都には古い伝統産業としての西陣、陶磁器等があつたが、その多くは手工業的な零細企業であつて、近代的な産業がすくなかつたことにもよると思います。谷善さんが書いた昔のもとを読んでみると、京都の労働運動は大正で終つたと書いていました。思想的に

は京都は先駆的役割をしており、啓蒙活動は盛んだった。昭和初期にも、たとえば大塚有章氏が未完の旅路にも書いていますが、洛北友仙のストライキなど、中小企業のストライキはありましたか、恒常的な労組という形の確たる事務所をもつてやつていたのは、全国的に見ると、京都は比較的脆弱だったことは事実だと思います。私は、総同盟で大阪にいましたが、京都連合会は昭和五年四月、洛北高野にあつた鐘紡京都工場のストライキ指導で、京都の労働界で存在が認められた。「左翼観念主義の下に、永年じゅうりんされ、あとは健全なる無産大衆解放運動の発展を阻害され、振わざる態勢にあつた京都の労働界も、現実的な社会主義の勝利に帰し、わが総同盟は、昔日の地盤を盛り返すにいたつた」といっているが、総同盟の全国組織としては脆弱なる連合会であったことは否めなかつた。

職労の最初のケースです。当時の区長は西村という人で、宇野君が私のところに報告にきて、「職組をつくろう」とすると、区長がそんなものをつくつてもらつてはこまる。組合のをつくつてもらつてはこまる。組合をつくらうとすると、区長がそんなも

の言ひ分です。この種の産業では、大きな問屋資本に奪奪されているという共通面があります。戦時下の社会政策、厚生対策を行政面から推進するための調査です。何でもロコツに治維法を拡大解釈して、引かれるというやり方、これが当時の日本の警察政治のやり方でもありました。石田良三郎さんや、私が治安維持法で市役所から追放されることになつたのです。

敗戦直後は、私たちもボ宣言や、占領軍極東委員会十六原則など読んでいたので、ホワイト・カラーや急速に労組をつくるというまでは考えていなかつたのです。

これは「燎原」第七号で田村敏男氏が話されている「サラリーマン・ユニオン」とは関係ありません。

#### 戦後の再建はどの様に始まつたか

敗戦の廿年に、京都で第一番にできた労組は、京都市電気局の労組です。ご承知のとおり、東京では戦前、東京交通労組という市電の労組があつた。大阪には大阪市電自助会というのを読んでみると、京都の労働運動は

ある日本輸送機、駅前にあつた内外印刷などの組合も次々に結成された。このとき、京都で、変り種にサラリーマン協会というのが結成される。これは「燎原」第七号で田村敏男氏が話されています。

ちよつと余談になりますが、ここで昭和十七年、当時内務省警保局の資料の中にある「京都市役所左翼グループ事件」というのに触れておきます。これは当時、京都市における社会部門を中心して、治安維持法違反で検挙されたという事件です。それは当時、西陣、陶磁器、友仙等京都の伝統的平和産業をいくつか調査したわけです。その調査方法がマルクス主義経済学の分析方法に依つたというのが特高の検挙の言ひ分です。

この種の産業では、大きな問屋資本に奪奪されているという共通面があります。戦時下の社会政策、厚生対策を行政面から推進するための調査です。何でもロコツに治維法を拡大解釈して、引かれるというやり方、これが当時の日本の警察政治のやり方でもありました。石田良三郎さんや、私が治安維持法で市役所から追放されることになつたのです。

#### 京都市職員 左翼グループ事件

ちよつと余談になりますが、ここで昭和十七年、当時内務省警保局の資料の中にある「京都市役所左翼グループ事件」というのに触れておきます。これは当時、京都市における社会部門を中心して、治安維持法違反で検挙されたという事件です。それは当時、西陣、陶磁器、友仙等京都の伝統的平和産業をいくつか調査したわけです。その調査方法がマルクス主義経済学の分析方法に依つたというのが特高の検挙の言ひ分です。

この種の産業では、大きな問屋資本に奪奪されているという共通面があります。戦時下の社会政策、厚生対策を行政面から推進するための調査です。何でもロコツに治維法を拡大解釈して、引かれるというやり方、これが当時の日本の警察政治のやり方でもありました。石田良三郎さんや、私が治安維持法で市役所から追放されることになつたのです。

#### 京都サラリーマン 協会

カラーの結合をはかり全国に呼びかけようではないかと、協会をつくろうといつてできたのが廿年の十二月二日で、このときのメンバーは京都独特のもので、今ほどイデオロギー区別ではなく、左も右も入っています。これは、私が「現代人」という雑誌に書いたものですが、それによると、私の家の住谷悦治先生を招き、民主主義についての研究会を開いている。そこで話がまたま、非戦災都市の京都でホワイト・カラーリーの結集をはかり、これを拡大して全国に呼びかけようではないかという相談がまとまつた。

## 趣 意 書

今や我が国は未曾有の危機に直面し、失業は巷を覆い、闇は横行し、飢餓は刻々と迫っている。暴動が勃発しないと誰が保障し得よう。この混乱は一体誰が収束しうる力をもつていいのか。すでに労働者農民は自らの生活確保のために力づよく立ち上った。われわれサラリーマンもこれに遅れをとつてはならぬ。しかるにサラリーマンは、いま、ばらばらに、各種の職場の中に、力弱く孤立し、散在している。危機を乗り越えるためには、われわれの力を今こそ結集し、民衆と共に立上らねばならぬ。

## 労組の再建と活動について

廿一年一月廿七日、日本労働組合総同盟京都連合会が発足しました。府立第一高女（今の鴨沂高校）で開かれた結成大会には一万四千人の労働者をもつ廿四組合の代表者が集っています。

総同盟京都連合会の構成、宣言文の詳細は後述することにして、当時傘下労組の共通性格について述べると、

### 混合の企業内組合 職制と現場職員

労働組合法が施行されたのが廿一年三月一日。京都の労組は三月十五日在で三二組合、一七、九三七名、前年八月十五日から半年あまりの間に、このような組織にふくれ上つていています。

当時の組合というのは末川博先生も書いておられるように、一つには経営者側に敗戦の虚脱状態があつたということも、もう一つは戦争中に物資配給ル

ルカラーリーと一緒になつて組合をつくったことを見えている。そのときのメンバーは、井家上専、石田良三郎、松島吉之助、前沢平郎、中川忠次、鈴木棋、——これらの人々は後に市の助役、局長になつた人達だつた。その他、齊藤英治、川端道喜、佐々木良雄（二中の英語教師）、小柳津恒、西岡四郎、田畠

茂二郎（京大国際法教授）、磯部実、住谷悦治、渡辺政之助、秋田清三郎、西村勝利、宇野清。費用は月額一円だった。

これは、當時、サラリーマン一般的のブルーカラーと一緒になつて組合をつくったことは、まだそのときには、考えられなかつた、といういきさつがこのような形になつたわけです。

この協会はその後、企業別の労組結成の流れの中で発展的に解消されました。これは、當時、サラリーマン一般的のブルーカラーと一緒になつて組合をつくったことは、まだそのときには、考えられなかつた、といういきさつがなつていて、

京都府職組のできたのは廿一年でも若干遅れていますが、ここでも市職労と似ている、當時課長であった清水薰君、この人は後に京都市経済局長になります。或いは労働基準局にいた井上君。當時役員は課長級で構成されていました。単に官公庁だけでなく民間の場合も同じで、太秦と桂に三菱がありましたが、そこでも組合長というのは、馬場君という、當時、高商出身の企業者側からみれば幹部だった。書記長も後西日本重工の労務担当の重役になつた広川君。このように職制の側に入れる人が大多数参加しておりました。いま日本電池の坂田社長は當時は労組の執行委員だった。ともかく戦後、労組の発足期には、職制、幹部候補生が多数組合に参加、それが一つには労組を組織するのに役立つたのでしよう。ブルーカラーだけではこうも早く組織は難しかつたのかも知れません。

（以下次号）

一トとして、労使一体觀に基づく産業報国会というものが、各事業毎に強制的に組織されておつたということから、経営者側も何か自分の企業の中で一つのまとまりのある組合をつくらなければ配給ルートからはずされはしないかというような一面の考え方があつたことは事実です。

更に、労働者自身が組合をつくろうという動きと、組合が当時はいわゆるホワイト・カラーであつた職員、しかも職員の中には経営者側からみると、幹部候補生、大卒であつて、課長にはなつていなかつて、課長クラス、あるいはこれに準ずるような人々が非常にたくさん経営者側から派遣されていると思つたぐらいに組合の結成に入つてきています。

（文責 井垣次光）

次号には、井家上さんのお話しのつづきと、二月十四日の第一回例会での堀芳次郎さんの「昭和初期農民組合運動の思い出」を掲載します。

### 予 告

は、神戸市長、高山市長時代にかけて、全部局長などになつた人達です。二代委員長は後に区長などやられた木戸貞一郎、その下の執行部には鈴木住宅局長、中川忠次民生局長、大橋交通局長というような、職制の中の局長クラスが當時は組合の構成メンバーになつていて、

## 京都の四・一六事件について

日本共産党は、昭和に入つてから、三・一五事件（昭、三）、四・一六事件（昭、四）の全国的大検挙があり、関西ではその後も、八・二六（昭、六）、九・三（昭、七）の大検挙が続きました。京都の三・一五と八・二六の両事件については「燎原」紙上で、齊藤英三さん、飯田助左衛門さんの談話によつて、当時の時代背景を若干知ることができました。しかし、四・一六事件については、当時の正確な情報を是非知りたいとの強い要望があるにもかかわらず、内務省、司法省関係の予審調書や公判記録はあつても、関係生き証人からの直接証言はまだ掲載することができませんでした。今回、三・一五直後、党再建全国巡回オルグの一人杉本文雄さんから、本年一月廿七日付にて井垣宛「京都四・一六事件」と題する原稿をいただきました。（本紙掲載了承済）当時の商業新聞の関連記事と登場人物の略歴を添え、掲載することにしました。

（井垣）

### 京都の四・一六事件

杉 本 文 雄

私は昭和三年六月頃、党の仕事で大阪へ行きましたが、そのとき京都は素通りで何も知らない。京都と私が関係をもつたのは昭和四年の二月（あるいは月末かも）です。私が京都へ行ったのは、党上部の間庭末吉の命に依るものでした。その後、新党準備会本部の書記三・一五事件当時、私は労働農民党党員でした。間断なく続く弾圧のため党上部との連絡も途切れ勝ちでしめた。そのうち、私は國領五一郎の指導をうけるようになりましたが、國領の

命によつて八月から北海道の党の再建にとりかかりました。その仕事の中間に報告に私は九月、東京へ帰った時には、すでに国領さんは検挙されていて党上部とは連絡がつきませんでした。

昭和三年十一月はじめころ（？）、私は見知らぬ党上部の人、間庭末吉に呼び出されました。聞かれるままに、新党準備会の本部の模様、北海道の再建の模様などを報告しました。間庭から命ぜられた仕事は赤旗の再刊、と言つてもプリント体制づくりでした。これを確立して、赤旗の定期刊行ができるようになった後のことです。

昭和三年十二月、私は間庭から「赤越、東北、北海道をまわつて来い。秘書者のリストをつくつて来い」といいました。当時すでに私は日本共産党的に行きました。私は泉さんに対する正式の言葉として入党せよとは言つていません。私は泉さんに対して正式の言葉とし

ますます御發展慶賀にたえません。私たちも「燎原」に学び、大阪での運動史研究を正しく進めたく考えています。（平野区加美南五一一二一二〇）

和四年正月元旦に秋田市内の同志の家でお雑煮のご馳走になつたことが強く印象に残っています。一月末に東京へ帰りました。

間庭は今度は「西の方をまわれ。大阪は連絡がついている。名古屋も行かなくともよい。京都、神戸、岡山、福岡その他をまわつて来い」と命令をしました。それで京都と私の関係が生れたわけです。それは二月はじめ（あるいは一月末）でした。

私は、京都では足がかりもないから、最初は学生の線をたどつて行つたのです。同志社の社研の女子学生が京都大学の方に連絡をつけてくれて、太門英太郎さんに会つて、それから泉隆さんにはつて初めて彼に党の話をしたのです。私は泉さんに「赤旗の配布責任者になること。そして党中央と連絡をとること」を承諾させました。そして中央の秘密ボストを教え、泉さんが指定

した京都の秘密ボスト、アドレスを確認し合いました。それから推せんする

秘密読者氏名略歴のリストを貰いました。

私は、泉さんに「やがて党中央から正式に指令が来るだろう。それから組織のことはやつてもらいたい」と、後日このことを頼みました。

私は泉さんと別れたあと、すぐに間庭のところへ手紙を書き、泉さんのこと、京都の秘密ボストのこと、秘密読者氏名略歴のリストのことを報告しておきました。これが私が京都でやつた

間庭末吉さんも私も四・一六事件で検挙されました。そのとき間庭は党員名簿には、私が赤旗配布責任者、赤旗秘密読者リストとして間庭に報告しておいた人たちが、党員として記録されていました。

泉さんが公判で、私は正党員だと、胸を張つたのも当然だったといえます。（以上）——（原文のまま）

— 誌友より —

『燎原』に学びたい

大阪 武田 大蔵

ますます御發展慶賀にたえません。私たちも「燎原」に学び、大阪での運動史研究を正しく進めたく考えています。（平野区加美南五一一二一二〇）

## 資料一

## 四・一六事件

## 関係新

## 聞記事

「大阪朝日」新聞 (昭和四年三月廿四日付)

『山宣勞農葬はかくて、弾圧の中にも、とどこおりなく終了した。これより(政治的自由獲得)労農同盟では、これを機として組織の拡大をもろみ、京都地方労農団体協議会を、労農組合の共同闘争の機関として発展させよう」と、委員長に奥村(甚之助)、書記長に西代義治をあげて、体裁をととのえ、三月廿六日には三条青年会館で山本代議士追悼、現内閣打倒、並びに、第五十六議会の即時解散大演説会を開催して氣勢をあげた』

京都では労農葬前後から引つづき検

舉者があり、弾圧が加えられており、四・一六事件の検挙は三・一五事件に比べれば比較的小規模で、廿六名(内学生廿一名、労働者四名、その他二名のうち婦人一名)で、検挙は六月三十日で終った。起訴者は左の三名。

泉隆(廿八才)、大門英太郎(廿五才)、氏家正人(廿八才)。

「大阪朝日」新聞京都版

(昭和四年十一月六日付)警察発表記事

『京都府特高課の捜査による京都府における共産党第二次組織は本年一月中旬、東京の日本共産党本部より「川田」と偽名せる杉本文雄が京都に入り込み、共産

四・一六事件のあと五月一日から、天皇の大坂行きがあり、この警戒のためまたまた弾圧検束が行われた。判明した』

「日出新聞」(昭和六年十月廿七日付)一

『三名に対する判決言い渡しは、昭

十四回大会で顧問に就任(全右)

泉隆(明治三十五昭四三)。石川

九二二年九月入党。廿廿三年共産党の京都組織の代表委員。(中略)全廿八年ころアメカ共産党日本人部に加入。

全廿二年一月モスクワで開かれた極東民族大会に片山潜らと出席。(中略)全廿八年八十九月、コミニテルン第六回大会を傍聴し、十月帰国、その後党中央で活動中、全廿九年四

十六事件で検挙。懲役十二年、青森刑務所で獄死。(「日本社会運動人名事典」編集代表塩田兵衛、青木書店発行より)○

國領五一郎(明三五昭二八)、京都在西陣に織物職人の子として生る。(一事件にて検挙。)(中略)党第八回大会以後中央委員に連続選出。全七七年第一事件にて検挙。

杉本文雄(明治三八一)名古屋市生れ。早稲田大学政経学部卒。(一九三三年から学生運動に参加。全廿八年入党、地下活動に入る。三・一五事件後、巡回オルグとして全国をまわり、党组织の再建につとめた。全廿九年四、一六年、青森刑務所で獄死。(「日本社会運動人名事典」編集代表塩田兵衛、青木書店発行より)○

大門英太郎(明三八一)第三高等学校(京都大学中退)。四・一六事件にて検挙。

氏家正人(明三五昭十二、三年頃)。織維関係労働者。四・一六事件にて検挙。(以上)

党秘密文書を京大生大門英太郎に交付し、大門の紹介で、京都市四条大橋附近のカフェー、または七条大橋々上で、泉隆、氏家正人と会見して、共産党的な興について審議し、その後、数回にわたり、過激文書を、同本部から密送し来るや、泉隆はオルガナイザーとして、京都市および郡部に、共産黨の外廓を組織するべく画策し、党本部から密送の文書を彼ら他数名が閲読した事が判明した』

## 誌友だより

大阪寺島二郎

正月に山田幸次さんから『燎原』を送って頂き、楽しく且つ興味をもって読ませて頂きました。

私は山田さんの交際は戦後に始まりましたが、そうしたなかで全講連の頃の話は聞いていましたがその前に、全漁連に居て『善幸さん』と机を並べて仕事をしていたことを知つて笑い出しました。

また北牧さんがお元気になられ活動をしておられるごとを知ることができたのも嬉しい限りでした。

私が読んだのは七・十一・十二の三号だけですが、そのなかには昔、父から聞いたことのある人の名や、河上肇学中日農京都府連書記長として小作争議を指導。大正十五年京都学連事件で検挙、さらに昭和四年四、一六事件で再検挙。懲役六年。戦後四年二月日所で獄死。(全右)

農京都府連書記長となり、農民運動の指導に当る。

また北牧さんがお元気になられ活動をしておられるごとを知ることができたのも嬉しい限りでした。

私が読んだのは七・十一・十二の三号だけですが、そのなかには昔、父から聞いたことのある人の名や、河上肇学中日農京都府連書記長として小作争議を指導。大正十五年京都学連事件で検挙、さらに昭和四年四、一六事件で再検挙。懲役六年。戦後四年二月日所で獄死。(全右)

農京都府連書記長となり、農民運動の指導に当る。

それでも『燎原』だけはぜひ読みたいので誌友にでもして頂けれ幸です。とりあえず誌代二千円をお届けします。

私は大阪の人間で、京都の語る会に入れてもらえる資格もありません。それでも『燎原』だけはぜひ読みたいので誌友にでもして頂けれ幸です。とりあえず誌代二千円をお届けします。

(住吉区長居二丁目一四一—一八)附記筆者は元大阪府職労書記長、レッズページ、前自治労解雇反対同盟事務局長

和六年五月四日行はれた。

泉隆懲役六年、大門英太郎同三

年、氏家正人同三年、なお氏家は昭和六年十月廿六日の控訴審では懲役二

年、執行猶予四年となつた。

▽ 隨想 7 △

# 捨てる神・救いの神!

住 谷 悅治

「捨てる神あれば、救いの神あり」という、何か格言めいた言葉が私の頭の隅に浮んでくる。

人間の一生というものは相当に長くまた思いようによつては、まことに短いとも感ずるが、何れにしろ交錯し、反覆し、あざなえる繩のごときものであるらしい。「著る平家は久しからず」という言葉が、あたかも格言のように私の頭に閉めし、わたくしのごとき社会の片隅で、ともかく生きつづけてあまり幸福つづきでもない、不幸つづきでもない生活を八十年余りを過ごしてきているが、上記の格言についてみると、しみじみした気持になる。

現実的には失業と得業の相互交錯、不幸と幸いのない合わせのようなものである。有為転変（ういてんぺん）の言葉そのもののとおり、因縁とかいうものに引き廻わされて、常に不幸と幸福とが、交互変化している。はかないことが、人間の姿として胸に迫る思ひがする。

あるとき、子供二人をつれて失業した旧友が羽葉打ち枯して、郷里への帰り方に立ち寄った。彼はわたくしにとって羨しい社会的好地位にあつた親しかつた学生時代の友人である。だから郷里への帰りに恥も外分も捨ててわたくしの方へ訪てくれたのであつた。わたくし自身彼を励ます資格はないが、力よく手を握つて別れた。二人は玄

月も経たぬうちに、いくらでもその実例を見ることができるのである。転変と動搖めまぐるしく、あれよあれよといつもの、日常の新聞記事を見てさえ、ほとんど毎日のように見かけられる世間と人間の実相である。そのことがむしろ人間の社会の常態であるかも知れない。油断も隙もあつたものではない。新聞では倒産や投身の報道がしきりである。昨今は人の身、今日脚下を見よ! だ。自分自身がその渦巻きの間にまきこまれて漂いつづけているのではあるまいか、失業を経験したるものなら、それがしみじみと胸にこたえる。新聞記事にとりあげられることはほんのその一部分にすぎない。たくさんありすぎる。わたし自身もそうであるが、わたしの廻りには積み重ねるほど見られる。

あるとき、子供二人をつれて失業した旧友が羽葉打ち枯して、郷里への帰り方に立ち寄った。彼はわたくしにとって羨しい社会的好地位にあつた親しかつた学生時代の友人である。だから郷里への帰りに恥も外分も捨ててわたくしの方へ訪てくれたのであつた。わたくし自身彼を励ます資格はないが、力よく手を握つて別れた。二人は玄

関で涙をこぼした。彼は郷里へ帰つても、郷里の家ではもて余されるにまつてゐるからだ。畠労働でも手伝いつつ、郷里の家の一小舎で生きねばならぬ現状である。錢別など呈上するほど現状ではないが、何ほどか愛する坊主ちゃんに心づかいをした。奥さんは

何でもできる彼のことだから、何も黙つてするに相違ない。わたくしは彼の人生観「信実と忍従」を想いつつ二人の子供を両傍に支えつつ去つて行つた。彼の罪でないのに、悲運の怒濤にさらわれた因果を恨みつつ、わたしの書いた推薦状と紹介状とを大切に懐（ふところ）に容れて去つて行った。人をたくさん使つていた心得のある彼は、きっとその豊かな経験を何十倍にも生かし、勤ラキ活動するに相違ない。当てをつけられた会社は彼をいた彼であるが、会社が多額の負債のため倒産したのだから仕方がないことである。罪は会社の経営振りではないかしら。有能の英才の名を負うて

彼のような有能な士を使ひこなせざりして倒産したのか、「大木の倒るやまさに一本のよく支えるに非らざるなり」。わたくしは消然として二人の子弟を伴つて去つて行ったその後の姿を見送り、青年時代にその秀才を語われた彼であるのに。彼個人の罪やしわざでない経済パニックの環境であることは確かである。

かつて人の愛情に助けられたわたくしは今は幸せであるように、彼と彼の家族に再び幸せの生活が復活することを希いつつ強く握手して別れた。この次に彼に会うこと楽しみにしつつ、なれるかしら、救いの神になつたこともないのに。（二九八一・二・二三）

## ▼ 会員だより▲ 奈良でも集会を計画

奈良 青木 康次

『燎原』をお送り頂き有難うござい

ます。（中略）奈良でも古いものが集まる計画があり、私が責任者に指名されていますので、貴会の動きなど大変参考になりました。また昭和八〇一年

京大法科に在学中、滝川事件などで二回検挙され、学生評論などにも関係があつたりで、その頃のお話をよんでいますと、大へん懐しく、折を見て一度参加させていただきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひします。（生駒郡斑鳩町小吉田 青木診療所）





## 遠き日の小作争議の思出

渡辺美登

二月の「語り部の会」が、堀様と云う方の「農民運動の思い出」のお話で終ったあと皆様からいろいろ質問が出ていたので、一寸口をはさんだ所、それを書けのこと、その頃のエピソードの一こま。

ある夜（大正の終り頃）淀村へも農民運動の指導者がみえて、お寺の前の広場で演説会がありました。森英吉さんのお外二三名みえていたようです。兄が、のぞきに行つて帰つてから、「面白かったぜ、一人がしゃべつたあと、『一寸』」と言つて俺が出て、今小作人は星をいただいて家を出、夕べは月影を踏んで戻る。そんな時地主は温い寝床でねている、と言われたが、お前たち恥かしくないのか？ 星を仰いで出て行くのは隣の弟（私の夫養子）一人だけだよ、弟は日本電池に勤めてるが、朝七時半、退社五時半で、いつも、家を六時十分にしてゆくが、朝までに起てる家は竹腰一軒だけだと言つてゐる。竹腰は、山崎一橋本の渡舟え出でいるから朝が早い。」と、もつと言つてもりがへ且那はんもう勘忍しひくなれ、だんだんボロが出てくつてました。大正八、九年頃、あちこちで農民運動がはじまつた頃、兄は小作人を集め、『本当に反当何石どれか』ときいて、『よく出来る田で三石二斗、外の田は二石八斗位』と言ふので、小

作米をそれまでの反当一石七斗を、一石五斗に、外田の一石五斗を四斗に減しました。終つたあと皆様からいろいろ質問が出ていたので、一寸口をはさんだ所、それを書けのこと、その頃のエピソードの一こま。

（日本美術会々員）  
伊達義三郎

『老人は過去を語り、青年は未来を論ず』という言葉があり、今までのイメージとしては老人の過去を語る事の暗さ、情けなさが先ず先入観念としか考へられませんでした。

（京都の民主運動史を語る会）の第13回例会の案内を載き、会合に参加する機会を得、永い間忘れていた京都での戦前の民主活動に活躍されていた諸兄姉にお逢い出来その当時の高齢を押して出席された堀さんから聞く事が出来、今は亡き、森英吉様、木村忠一様達の名を懐しく憶い出したのです。

## 13回例会に参加して

戦時中、自作してみたら、素人の私が作つても一方は四石余、外田で三石五斗とれました。）その上、兄は五馬力の石油エンジンを据え（まだ電燈もついてませんでしたからモーターは据えられません）二、三日雨が降るとすぐ灌水する田は排水ポンプとし水の入りにくい田には水を入れて水車を

作業を志す者として近來は美術家グループの中での動きが主になり若い人々の活動を中心的に活動する事が多く、未来を語る青年の仲間だと自認していました。ところが本会の会合に出席して、過去の輝かしい歴史が今も語り伝えられる事が如何に現在の諸活動の原泉であり教訓であるかを知る事が出来ました。生死を越え血のにじむ生々しい体験を通しての記録は単に理論や学問で得る知識以上ものがある筈であります。

現在民主活動の第一戦に立っている青壯年の方々の中には、戦前の彈圧、戦中戦後の困窮時代「朕はたらふく食つてゐる。爾臣民餓えて死ぬ」という話など知らない人も多いと思いますので、そのような今の時代、次の時代を背負つて立つ人々に、年齢的には老人になつた方々が今のうちに繰り返えし、繰り返し語り伝えておかなければならぬと思ひます。現代の語彙（かたりべ）となる本会の皆様の任務は実に重大であり意義深いものがあると固く信じて止みません。不肖私も一員に加えて載った以上余生を捧げて京都民主主義活動の一端を果し得るよう精進することを誓ひます。

踏む苦労をなくしていました。

後年水長さんに逢いましたら

淀村

地解放により、大山崎の田畠は、不在

地主としてなくなる運命にあつたので

すから、たとえしばらくでも、農民に感謝されただけでも幸福感を持つて死んでいただと思います。

しかし日本一と言はれた排水のおかげで良田になったのも束の間、ドンドン宅地や会社の敷地に化け、ネオンサ

ヘギラギラする夜景を眺めて感無量なるものがござります。

洛西だけでなく、巨椋池の干拓を増産の為に畢生の事業とされた池本甚四郎氏もあの世で苦笑していらっしゃいます。（八一、二、一七）

（投稿歓迎）会員・誌友各位からの消息、感想、随筆などハガキ通信をお待ちしています。